

JR 貨物吹田機関区 視察報告書 学生レポート



訪問日時:2016年1月23日(月) 16:00~18:00
参加者:大阪大学赤井伸郎ゼミ 16名(2・3・4年)+引率教員2名



赤井伸郎ゼミの授業の現場編として、JR 貨物吹田機関区および吹田貨物ターミナル駅の視察を実施した。

スケジュール

- 16 時 30 分～50 分 会議室にて吹田機関区の概要説明
- 16 時 50 分～17 時10 分 吹田機関区構内見学(機関車・貨車)
- 17 時 10 分～17 時 20 分 吹田貨物ターミナル駅へ徒歩にて移動
- 17 時 20 分～17 時 35 分 庁舎屋上等から構内説明
- 17 時 35 分～18時 10 分 会議室での吹田貨物ターミナル駅概要説明及び質疑応答

森之宮に移動し、19 時から、中華「あかまつ」で交流会

2017 年 1 月、日本の貨物輸送を支える仕組みの実態を学ぶための視察として、JR 貨物(日本貨物鉄道)の機関区とターミナルの視察をする機会を頂いた。全国の JR は、国鉄の分割民営化により6つの旅客鉄道会社と1つの貨物鉄道会社として発足した。JR 貨物は、日本全国をカバーし、各 JR 旅客鉄道会社に線路使用料を払って貨物列車を運行している。日本唯一の鉄道貨物輸送会社である。制約は多いながらも、近年の環境への配慮を受けて、その存在意義は高まっている。コスト競争力を高め、日本の物流の一役を担っていく挑戦に期待したい。貨物なので、住民とのかかわりは少ないように思えたが、実際に視察した吹田ターミナル駅は、市内のど真ん中にあり、荷物の積み替えの騒音に対して住民の理解が必要だったこと、街の大きな部分を占めるため街づくりとともに計画が進められたことなど、新たな実態を学ぶことが出来た。環境に加え、住民との共生も、現在の重要課題であり、地道な努力が求められる。今後、この鉄道網インフラを、環境と共生できる物流の要としていかに活用していくのか、学生が考えるきっかけになったと思う。この視察の経験を、今後活かして欲しい。実施後のアンケートでは、参加学生ほぼ全員が大満足との回答をした。以下に、学生の感想をまとめる。

文責 大阪大学国際公共政策研究科 赤井伸郎 2017 年 3 月 13 日

JR貨物吹田機関区 説明と見学について	
1	貨物についての知識が皆無だったので、今回お話を交じえ現場を見させていただき、理解が深まった。貨物ひとつで多くの荷物を運搬でき、環境に優しいというメリットがある一方、その運搬を担うために、運転士の方が夜通し運転しておられるという現場の大変さを痛感した。日本ならではの安心安全の技術力を感じると同時に、その方たちのおかげで、私たちは生活に必要な物資を享受できているのだと実感した。
2	貨物列車についての知識がほぼ皆無であったため、見学前に通りの概要をお教えたただけなのは、非常に有り難かったです。その上で施設見学をすることができたので、より吹田機関区の長所がみえたと感じます。見学の際も、ひとつひとつを見る時間が十分に取られていましたし担当の方々が丁寧に説明していただけたので、満足できました。
3	神戸港など各地の貨物線が廃止になっていることから、鉄道貨物輸送はもはや斜陽産業なのかと思っていたが、想像以上に機関車が行きかっいて、意外だった。また、人口減少社会においてトラックに比べ労働力が比較的少なくて済む鉄道貨物輸送は注目に値すると感じた。自動運転も、レールがある分、安全面から鉄道のほうがトラックより先に実用化できるのではないかとも思うので、これからに期待をもてた。
4	JR貨物についての基礎的な知識がほとんどなかったため、丁寧に説明いただき勉強になりました。貨物列車がコストパフォーマンスと環境への配慮の両面で秀でた物流手段であるということがよくわかりました。現役の車体にらせてもらい、触らせてもらう機会は珍しいのでとてもいい経験になりました。
5	今まで貨物列車にそこまで焦点を当てたことがなかったので、全く知らないことばかりでとても興味深かった。操縦席に座らせていただいたのもとても貴重な経験であったし、社員の方も親切に質問に答えていただき勉強になった。JR貨物という会社の存在もあまり知らなかったため、会社の概要も聴けて良かったと思う。
6	以前に別の旅客輸送鉄道の会社の車両基地を見学しに行ったことがあるが、そこと大きな違いは感じなかった。過去の事故の経験から、安全確認をしっかりと行うこと、指差し声出し確認を必ず行うことといった点も旅客輸送、貨物輸送のどちらでも同じように行われているようで、そういった点はほかの交通機関(バス、タクシー、船舶など)も参考にすべきではないかを感じる。
7	日本の鉄道貨物の中心の一つでもある吹田機関区を見学させていただき、大変有意義な時間を過ごすことが出来た。地球温暖化が進行しCO2の削減が叫ばれる現在、トラック輸送からのシフトが見られることは願った。また、環境に良いエコレールマークなど政府の取組が行われていることも興味深かった。
8	初めて貨物輸送の現場について知ることができ、非常に勉強になりました。以前は海運の現場を見学させてもらったので、港のコンテナの現場と比較できたのは有意義でした。港でも、機関区でも輸送の正確性と効率性が求められ、そのためICや無線の活用されていることを学びました。また、港と機関区の両方とも私たちの日常や物流に欠かせない存在であるため、24時間労働や過酷な勤務形態なのが、やはり不安に感じました。今後、輸送のさらなる充実が求められる中で、JR貨物がどのような働きをするのか今後も注目したいです。

9	<p>地元のJR九州を高校時代よく利用していたので、並走する貨物をよく眺めていたことを思い出しながら聞いていた。貨物列車はいつも長くて、うるさくて、たくさんのコンテナが積まれてて、電車きた！と思ったらなんだ貨物かよ、となることがしばしばあったが、今回の説明を受けて、貨物の担う物流がいかに偉大かを知った。実際の貨物の運転席に入った時、その独特のタバコの臭いに驚いたが、夜通し運転する運転士のことを考えるとタバコでも吸ってないと寝ちゃうんだろうなーと思った。</p>
10	<p>JRは旅客輸送しか馴染みがなかったもので、今回の説明で、近年鉄道輸送が見直されていること、鉄道輸送の強みなど、JR貨物についても知ることができて良かったです。貨物列車の運転席に実際に乗ることは普段できるわけではないですし、汽笛まで触らせてもらったことは貴重な機会だったと感じます。</p>
11	<p>あまり貨物について知識がなかったもので、詳しく教えて頂いて勉強になった。貨物列車については普段はなかなか意識することがない存在ではあるものの、国内の物流の一角を担っており、その輸送力の大きさや環境負荷の面での優位性など、その存在の重要性を再認識することが出来た。実際に運転席などにも入れて頂き、貴重な経験が出来た。</p>
12	<p>貨物電車を間近で見ることができ、貨物電車は普通の電車より一回り以上大きく迫力があつた。実際に、運転席に乗ることができたのは貴重な体験だった。吹田機関区のシステムや実際にどのような人が働いているかなど細かい説明がありよかつた。</p>
13	<p>実家の近くに線路があつた関係で、小さいころからよく見かけていた貨物列車には親しみがあり、とても楽しく見学することができました。安心・安全な運行を実現するための取り組みや、競合している企業が貨物において協力関係を結んでいるという話が特に印象的でした。モーダルシフトの観点から今注目されている鉄道での輸送について学べた経験は、とても貴重なものと思います。</p>
14	<p>夜の配送に向けて、稼働中の貨物車が見れてよかつたです。また、運転席から見た景色が想像以上に高い位置からで驚きました。見通しをよくするためだそうです。けん引のために車両を敢えて重くしているという話も聞くことができました。知らないことばかりで大いに勉強になりました。それから、青い車両が多かつたように思うのですが、あれは何か理由があるんでしょうかね…。</p>
15	<p>父の影響でずっと興味があつて、見に行きたいと思っていたところだったのでとても興味深く見学させていただけました。以前普通に旅客用として使われていた有名な電車が貨物に転身していたり、またそれを直に見ることができたり、普段は絶対に入れない運転席に座らせて頂いたり、本当にお父さんが羨ましがってくれるくらいにたくさんの方が知れてとてもよかつたです。</p>

吹田貨物ターミナル駅 説明と見学について	
1	最新の貨物ターミナル駅に入らせて頂き、予想以上の規模の大きさに驚いた。モーダルシフト化が進んでおり、環境面により運搬を行うという貨物鉄道の性質に企業も注目して、同種、異種にとられず様々な企業が大型コンテナを共同で利用しているということも興味深かった。貨物鉄道の運営を行うために、自治体の方と交渉したり、地域住民の方に騒音に対する理解を得るといった活動も行われていることも知り、地域と共存していく企業のあり方の一面を感じ取ることができた。
2	ターミナル駅に関しても、概要について十分に説明していただけたので理解が深まりました。ただ、駅の見学については規模が大きく、時間的な制限もあったうえですが、屋上の方からだけでなく、地上からも少しゆっくりと見たいとも感じました。ただ、屋上からの見学によって吹田貨物ターミナル駅の広大な敷地面積が肌身をもって感じられたので、非常に良い機会となりました。
3	鉄道というと真っ先に旅客を思い浮かべてしまうが、もう一つの側面に目を向けられる機会として貴重だった。明治以降の鉄道一辺倒から成長期の自動車中心主義を経て、トラックは短距離・鉄道は中長距離輸送に特化と、交通政策は時代に翻弄されてきた節がある。現在、中長距離輸送は鉄道が環境面・コスト面で優位で口ではモーダルシフトと言っているにもかかわらず、交通政策は未だ網のような国道網・在来線網と重複する高速道路網を整備しようとしている。国際規格のコンテナが入れない区間もあると聞き、既存の在来線ネットワークの脆弱性、交通政策の矛盾を感じた。鉄道というと完全新線の幹線建設に傾きがちだが、今後は費用や工期を考えると今あるものを有効活用するための在来線改良が重要になってくると思う。矮小な我が国の国土に合ったインフラは何か、高速道路と在来線の高速化を別々に考えず、最適な交通政策を選択してほしい。
4	「駅」と言われてもとてもピンとこない規模の大きさが印象的でした。荷物の積み下ろしを人がフォークリフトで行っている様子を見て、想像よりも動作が早く見とれましたが、膨大な時間がかかりそうだと思います。敷地に対して働いている人が少ないため、大型の機会を動かす際に事故が起きないように様々な工夫がなされていることも印象的でした。
5	昔の大阪はもちろん、阪大に入学するまではテレビの天気予報くらいでしか大阪の存在を意識することもなかったほどに大阪という街について全く知らなかったもので、まさかこんな近くに大きな駅があるとは予想外で非常に興味深かった。大阪は一つ一つの市が非常に小さいので、何も無いようにみえるが、こうして多くの人が街づくりのために努力していることを実感した。
6	以前に別の旅客輸送鉄道の会社の車両基地を見学しに行ったことがあるが、一駅の大きさや人員配置など、こちらは旅客輸送と大きく異なっていた。鉄道輸送は環境面を考慮した場合に優れた輸送手段であると言えることから、競争への介入に注意しつつ国が鉄道輸送を促進してもよいかもしれないとも思った。(聞きそびれたこと)旧国鉄に関して、旅客輸送は全国各地で分社化されているが、貨物輸送は全国単位になっているのには理由があるのだろうか。
7	大規模な貨物ターミナル駅には驚かされた。また、他の輸送手段と比較しても優位性の大きい鉄道コンテナ輸送を行う事業者はJR貨物1社のみと伺った。実質的に独占状態の中、政府はどのような規制を行っているのか疑問に思った。
8	まず、吹田貨物ターミナルの規模の大きさに驚きました。一局に集中した方が荷物を効率的に積み入れることができているように感じました。ただ、駅自体の規模が大きいため、内部の移動や、どの荷物がどこにあるかを把握するのも大変そうだと思います。また、周りが住宅なども多くある中で、意外にも住民からの苦情が少ないということも驚きました。騒音に対しての住民の理解を求めることが大変そうだという印象があったので意外でした。ただ、新しい音に関しては住民からの批判があるなど、運営が大変そうだというイメージも持ちました。騒音という外部不経済をどのようにして住民と折り合いをつけていくのか、その過程について興味を持ちました。

9	<p>最近新しくできたばかりのターミナル駅を見学させてもらったのは異常にラッキーだった。機関区同様、JR貨物の物流の結節点としてこのターミナルが日々静かに活躍していること、環境や周辺住民を考慮し営業していること、運転士は24時間勤務など、知らなかったことをたくさん知ることができた。</p>
10	<p>梅田から吹田にターミナル駅が移転したことは知っていましたが、見たのは今回の見学が初めてでした。最も驚いたことは広さのわりに、とても細長い敷地だということです。なんとなく駅というと、ホームを横に作っていくイメージですが、貨物の積み降ろしという点を考えると、この細長い形状にも納得しました。</p>
11	<p>大阪に長く住んでいるわけでもないので、貨物ターミナル駅の変遷について今まで詳しくはなかったため勉強になった。陸運の業界において鉄道で運送している会社はJR貨物のみなのでなかなか技術革新なども起こりにくいと見学前は思い込んでいたが、より効率的に貨物を下ろしたり載せたりする技術が導入されつつあることを知ることが出来てよかった。</p>
12	<p>新たに吹田機関区を設置することによる周辺環境への影響を与えないよう細かな配慮がされていることに驚いた。今後、ドライバー不足による貨物電車の需要増加にどのように対応していくのか興味深かった。詳細についてまとめられているスライドがありよかった。</p>
13	<p>まず、吹田貨物ターミナル駅の縦の長さに驚きました。駅が担う役割について説明を聞けば、それだけ大きな役割を果たしながら、地域と共存していることがわかりました。騒音の問題というのは大きな事業所にはつきものな問題かと思いますが、機械などの構造を工夫しているだけでなく、スピーカーが敷地内の内側を向いているかどうかなど、些細に思えることまで気をつけていることに感嘆しました。</p>
14	<p>まだ開業から3年程度ということで全体的に新しい感じを受けました。これまでは、ただの操車場であったため、近隣自治体との騒音に関する交渉などが大変であったというお話は興味深かったです。ターミナル駅を中心に今後さらに発展していくということで、街づくりという観点からも貨物駅の存在は面白いなと思いました。駅の長さが7kmを超える日本一の駅を見学できてよかったです。夜の貨物の積み下ろしなどもぜひ見てみたいと思いました。</p>
15	<p>とにかくその広さに驚きました。もともと吹田に貨物の大きな駅があることは知っていたのですが、まさか橋が見えないほどに大きいとは思っておらず、貨物は、私たちと普段は直接に触れることは少ないものの、やはり大きな恩恵を受けているのだということが体感できました。</p>